2月5日に査定会を開催。生産者が出荷規格を認識共有

集荷所内は、この時期ならではの賑わい

春を告げる山菜といわれる「山ウド」の収穫が盛んに行われ、山うど部会員34人は収穫作業に追われ、野菜集荷所内には生産者が収穫した「白神山うど」が次々と運び込まれ、この時期ならではの活気に満ちています。

斉藤営農指導員は「厳しい寒さの影響で、山ウドの生育にばらつきがあり、出荷量も例年より少なめだが、出荷される「白神山うど」は生産者の技術により高品質のものばかり。消費者の方々には安心して春の味覚を味わってもらいたい。」と話します。

「白神山うど」は、シャキシャキとした食感と独特のほろ苦さが特徴で、現在約29haで栽培され、125・3tの出荷、8457万円の販売を見込んでおり、収穫作業は4月上旬頃まで続きます。

集荷所に運び込まれた「白神山うど」を荷下ろすJA職員

「白神山うど」共進会自慢の逸品勢ぞろい

山うど部会（桜田和浩部会長）は、2月16日に17人の生産者から58点が出陳され「山うど共進会」を開き、生産者らが出来栄えを競いました。審査の結果、茂内義輝さんが出陳した「東武鯉玉2号」が最優秀賞に輝きました。

審査を担当した販売課清水考査役は一品ずつ梱包箱から取り出し①軟白長②全長③肌の色④葉の開き具合などを厳正に審査。

「今回出陳されたものはどれも甲乙つけがたいものばかり。生産者個々の栽培技術の向上が伺える。その結果が市場関係者から高評価と信頼を得ることに繋がり、コロナ禍での販売単価の堅調な推移にも繋がっている」と話します。

最優秀賞を除く結果は次の通り。

▽優秀賞＝工藤アキ、桜田和浩

▽奨励賞＝（有）米道ふたつい

上位表彰を受けた3点

慎重に審査する審査員ら

視覚に訴える新しい情報共有の形

販売課は、青果物の市況情報などを随時生産者らに周知することを目的に能代野菜集荷所内に65インチの大型ディスプレイモニターを設置しました。

これまでは青果物の市況情報は品目ごと場内の掲示版に張り出して周知していましたが、モニターが設置されたことで、生産者が集荷所内で車内からも情報確認出来るようになり、生産者の利便性向上が期待されます。

販売課清水考査役は「設置したモニターを活用して、市場からのクレームが入った青果物の写真を映像化することで、これまで対象者のみに書面や口頭で今後出荷する際の注意を促していたが、全生産者の視覚に訴えることで、白神青果物全体の品質底上げに繋がると思う。」とモニター設置の効果に期待しています。

設置したモニターからJAのあらゆる情報が発信されますのでご注目下さい。

設置された大型ディスプレイモニター

低価格トラクター提案活動が全国的に評価

農業機械課は、JA全農が扱う低価格トラクターを農家組合員へ積極的に提案活動した点と、秋田県内JAにおいてもトップの受注実績をあげた点、JA内での部門間連携を強固にした点などが評価され、2月22日にJA全農山﨑周二代表理事理事長より表彰状が送られました。

工藤農業機械課長は「近年、新規就農者をはじめ生産規模を拡大する生産者が増えていることから、営農指導員らと情報を共有することで結果に繋がった。来期も引き続き生産者コストの低減に寄与するために、積極的に情報を共有し推進していきたい。」と話します。

農業機械課では今後も共同購入トラクターの提案活動を強化し、生産コストの更なる低減を農家組合員へ提案して参ります！

受賞した当組合を除く受賞JAは次の通り。

▽JAみやぎ登米（宮城県）

▽JAなすのサービス㈱（栃木県）

佐藤組合長から表彰状を受け取る工藤農業機械課長

まもなく春の農作業スタート！

2月18日から能代地区を皮切りに種もみの配布が開始されました。能代集約倉庫を会場に、経済課TAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）職員らが、事前に予約注文を受けた約13万3476kgの「あきたこまち」や「ひとめぼれ」、もち米などの種もみを、稲作農家が乗り入れた軽トラック等の荷台に注文伝票の確認をしながらドライブスルー方式で積み込みました。

JA管内では例年4月中旬頃から「あきた白神米」の播種作業が各地で始まり春作業が本格化。

受け取りに来た生産者は「種もみを手にすると春の到来を感じる。去年はコロナの影響でいい年でなかったから、今年はコロナの収束と大豊作を願って作業を頑張ります。」と力強く抱負を語ってくれました。

トラックの荷台に種もみを積み込むJA職員

蟹座（6・22～7・22） 気分の優れないときに無理は禁物。ぎりぎりまで待った方がうまくいくことも。後半、耳寄りな話が入ってきそう

双子座（5・21～6・21） 活躍が期待できます。やりたいことや興味のあることを周りに伝えて。協力してくれる人が現れるはず